

「あたたかく見守ってもらえる地域 石巻プロジェクト」

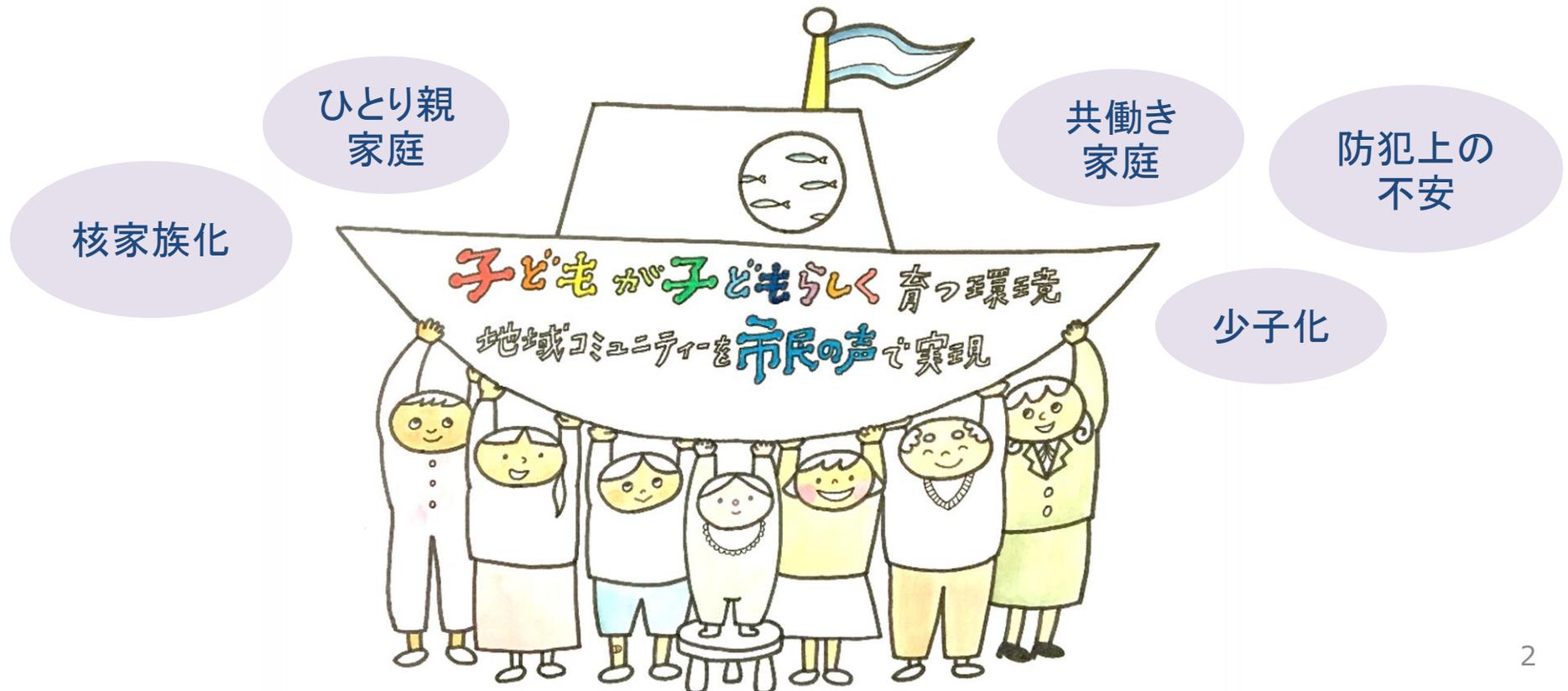
特定非営利活動法人にじいろクレヨン
(宮城県石巻市)



《 にじいろクレヨン理念 》

東日本大震災の被災地を、子どもたちとともに
居場所づくりを通して心豊かなまちにします。

震災によって既存のコミュニティが崩れたことにより、子どもを取巻く環境が大きく変化



「子育てに余裕が持てない・・・不安」
「感情的な言葉を言ったり、叩いたりしてしまう」
心に余裕が持てない養育者が虐待予備軍の存在に

養育者の不安

- ・子育てをする上で特に負担と思うことは？
「自分の自由な時間が持てない」40.6%、「子育てで出費がかさむ」39.0%、「子育てによる精神の疲れ」29.7%
- ・子どもへの対応、不安や負担が多い人ほど「感情的な言葉を言ったり、ひどく叱責したことがある」63.6%、「たたくなど、手をあげたことがある」40.9%とストレスの矛先が子どもに向かってしまう状況がある。

社会課題

- ・なぜ叩いたり、ひどく叱咤したかの理由は、「自分自身が心身ともに余裕がなかった」63.6%、「子どもが言うことを聞かない」56.3%、「子どもの態度が悪い」26.4%など孤独な子育て状況も要因となる。
(石巻市子どもに関わるアンケート調査から)

- ・心に余裕がなくなると子どもに対して感情的になる場面がある。
- ・叩いたり、どなったりしてしまった罪悪感で養育者本人も傷つき、不安を募らせている。
- ・子どもに厳しく指導することが正しいしつけの手段であると捉えている養育者と社会の存在。
- ・叩く、どなる以外の対応方法を知らない。
- ・養育者の不安感により、子どもの育ちに様々な影響が有る。
- ・子どもへの直接的支援だけでなく、**養育者支援の重要性**。

子どもが子どもらしく、心も身体も傷つくことなく、のびのびと育つためには・・・
社会が**子どもの「感じ方・考え方を理解」**すること。

1) ポジティブ・ディシプリン公式プログラム18時間版講座開催

日常的な子育てから体罰をなくし、親子がより良い関係性を構築するための子育てプログラムを実施。

事業目標：毎週2時間×9回(全18時間)の講座を年2回実施。 ⇒参加者10名×年2回実施、全体で20名

成果目標：子育てに不安や負担を感じている養育者が、子どもの発達や感じ方考え方を理解し前向きな子育てへの行動変容につながる。講座開始前と最終回それぞれにアンケートを実施、行動変容について効果を測定する。

2) 行政、子育て支援団体との協働基盤づくり

行政、他団体との連携基盤をつくり、家庭における体罰、虐待予防の啓発活動を行政と協働し推進していく。

成果目標：次年度以降の活動で、行政や他団体と協働できる。



※「ポジティブ・ディシプリン」とは、子ども支援専門の国際NGOであるセーブ・ザ・チルドレンが、児童臨床心理学者のジョーン・E・デュラント博士と共に開発した罰に代わる子育てへの取り組み方を提案する養育者支援プログラムです。

実施内容（コロナ禍での工夫した点）

コロナ禍の中で、孤独な子育て状況が生まれていた。

- ・参加定員を16名⇒10名、感染症予防対策の徹底



【参加者からの声】

- ・「子どもの視点で考えてあげられるようになってきた」
- ・「発達段階を知って、子育てが楽になった」
- ・「みんな、同じ悩みを持っていると知り、不安が減った」
- ・「より良い親子関係を作っていきたいと強く感じられた」

託児スタッフは以前に講座受講した
方々のサポートで！

託児ボランティア参加人数16名

成果

- ・行政の共催
- ・講座を担当ファシリテーター育成
- ・講座受講をきっかけに支援される立場から支援者側へ
- ・託児の仕組み化、講座受講者の交流の場になった。

心に余裕がもてるようになり 前向きな子育てに

1. 地域コーディネーター、講座ファシリテーターの育成

多くの人に活動を周知する、運営に主体的な関わりを持つ人材不足

⇒講座開催日程や、時間の設定を工夫し講座を受けやすい環境をつくる。
支援者向けの研修会を行い、地域人材を発掘し養成していく。

2. 活動を継続させていくための資金調達

資金調達方法が未確定

⇒参加費の徴収、企業寄付などを募る為、ポジティブ・ディシプリンの周知・
広報活動にも力を入れ安定した資金調達基盤を確保していく。

3. ネットワークの強化(協働)

家庭における体罰、虐待予防の啓発活動の不足

⇒これまでのネットワーク（石巻市、ポジティブ・ディシプリン日本事務局
Kids-kuきづく、子育て支援施設他）を軸として強化していく。

次世代を担う子どもたちが、心も身体も傷つくことなく 地域の中であたたかく見守られながら 子どもも大人も認め合える社会へ

